

エコパネル・ミニエコブロック現地見学会の概要

開催趣旨

CIFER・コアでは、直立護岸や岸壁がほとんどを占める大阪湾の環境改善を目指してエコパネル及びミニエコブロックの調査・検討を進めてきました。この調査・検討に当たっては専門家、WG 構成員、大阪湾広域臨海環境整備センター、大阪府都市整備推進センター、大阪府港湾局、事務局をメンバーとする研究会を開催し、その構造や調査方法等についてご意見をいただき、検討しました。

この度、その成果を踏まえ、設計・製作されたエコパネル及びミニエコブロックが現地に搬入されましたので、それらを直接、見て、触れて、より理解を深めてもらうためにエコパネルの現地への設置日に併せて見学会を開催しました。

開催内容

- 日 時 令和2年3月19日（木）9時45分～12時00分
- 見学場所 エコパネル：泉大津市夕凧町地先（フェニックス泉大津沖処分場）
ミニエコブロック：岸和田市岸之浦町地先（阪南2区埋立地）
- 主 催 一般社団法人大阪湾環境再生研究・国際人材育成コンソーシアム・コア
- 協 力 大阪湾広域臨海環境整備センター
大阪府都市整備推進センター
共和コンクリート工業株式会社
東亜建設工業株式会社
- 参加者数 16人（会員企業10人 事務局6人）
- 行 程 09：45 集合（泉大津駅）
10：00 エコパネル見学（フェニックス泉大津沖処分場）
10：45 阪南2区へ移動
11：00 ミニエコブロック見学（阪南2区埋立地）
12：00 解散（岸和田駅）

開催概要

当日は天候に恵まれ、ぽかぽかと汗ばむほどの見学会日よりでした。フェニックス泉大津処分場のエコパネル現場では、撤去した鋼製のエコパネル（平成27年3月設置）が1枚置かれていたので、上部の干出部、中間の潮間帯、下部の浸出部にそれぞれ違った生物が付着、生息していた状況を観察することができました。撤去して1日経過していましたが、浸出部の溝にはまだ小さなカニや巻貝数個が生き、藻類も付着しており、潮間帯にはマガキらしき貝殻が3個程度残っているのが観察され、すっかり生物生息基盤になっていたことが確認されました。今回設置したコンクリート製のエコパネルでは、カニ等が捕食者から身を守り、干出してもできるだけ乾燥しないよう配慮して凹部を深くし、さらに奥に向かって勾配を付けて海水を溜まりやすくしていますが、その構造をよく理解することができました。

阪南2区埋立地では、ミニエコブロック4基が製作・仮置されている現場を見学しました。エコパネ

ルと違って人の身長以上の 2m もあり、大きく感じました。海水交換がスムーズにできるよう、正面には小さな穴 8 個と側面に幅 70cm の大きなスリットが設けられています。また、ブロックの底には摩擦増大用のアスファルトマットが付けられていますが、ブロック設置までの間の劣化防止のため、仮置現場では木材で覆っていました。ミニエコブロックの内部には、海域生物が蛸集しやすいように、ロープ類、人工藻、栄養補給骨材、牡蠣殻、底生魚類用パイプ、コンクリート管、自然石などを設置する予定で、その配置等は今後検討することとしています。これらの内部材を取り付け、ミニエコブロックを現場に据え付けるのは令和 2 年度となります。多くの海域生物が蛸集することを期待しています。

見学会ではエコパネル、ミニエコブロックを製作した共和コンクリート工業株式会社には現場でそれぞれの構造等について説明をしていただき、阪南 2 区の工事を担当している東亜建設工業株式会社には作業を一時中断して見学にご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。



▲ エコパネル見学会の様子
(フェニックス泉大津沖処分場)



▲ 今回設置する
コンクリート製エコパネル



▲ 撤去した鋼製パネルに生物が
付着している様子が観察できた



▲ ミニエコブロック見学会の様子
(阪南 2 区埋立地)



▲ 側面のスリット部



▲ 内部の構造